

Interactive System of Inter Scores ISIS
千冊にこめた400万字の情報。
知の方法を語る松岡正剛の読書術

1000books,1000nights Seigow MATSUOKA
松岡正剛の 千夜千冊

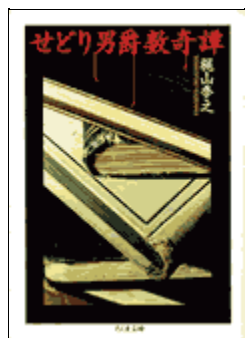
1145~ 最新の千夜千冊はこちら
千夜千冊「遊蕩篇」

第五百三十六夜【0536】2002年05月14日

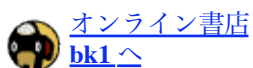
Seigow's Book OS / WEAR

梶山季之
『せどり男爵数奇譚』

1974 桃源社・1983 河出書房新社・1995 夏目書房・2000 ちくま文庫



©筑摩書房



ぼくの若い友人に平野雅彦がいる。静岡に住んでいて、かつてぼくが静岡市のオープンカレッジのような講座に呼ばれたときに、黒い服を来て、眼をららんと輝かせて、ぼくを黒縁の丸眼鏡の奥から凝視していた。

それから平野君との度重なる交際が始まった。彼は未詳倶楽部に入り、ISIS編集学校の師範代を務め、編集工学研究所の学習ソフト開発プロジェクトを支えてくれた。ぼくが個人的なメディアとして発行しつつづけている『半巡通信』にもメッセージを寄せてくれた。たいへんにシャイで、まるで江戸の長屋に住む心優しい素浪人か、オマー・シャリフとともに砂漠をゆっくりやってくるアラブの騎士のような風貌なのだが、実は極真空手で3位になったこともある兵（つわもの）でもあり、まことに自由な計画を練るプランナーでもある。



梶山季之

その平野君が大好きな言葉がある。それが「せどり」である。

「せどり」は「背取り」で、この「背」は本の背表紙のことをさしている。『広辞苑』には仲買の取次をして注文品をたずねあてて口銭をとる「競取」（せどり）が語源だとあるが、いまでは誰もが古本屋の中の必要な本を抜いて別の古本屋に提供するときに、その本を適確に抜くことが「せどり」だと見ている。

そのように「せどり」が本の「背取り」だというふ

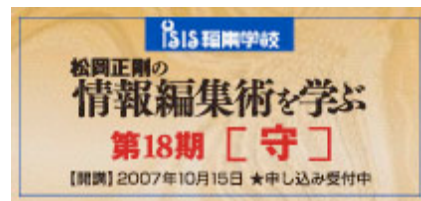
出版社向け無料プログラム

書籍を無料で販売促進 Google ブック
パートナープログラム
books.google.co.jp

新せどりノウハウ

アマゾン、オークションで古本を
売って月30万稼ぐ方法。2000人が
体験。
www.sedori.net

Ads by Google



松岡正剛の
編集術を学ぶ
ISIS
編集学校
第18期 [守]
受講生募集中！
詳細はこちら

うに定着したのは、梶山季之の『せどり男爵数奇譚』のせいだった。きっと平野君もこの一冊を読んで、一挙に自身のなかにひそむ背取り能力にめざめていったのではないか。

というのも、平野君は背取りの名人なのである。

いやいや背取りの名人などというと、彼が古本業界で糊口をしのいでいる怪しい人物とおもわれようが、そうなのではない。妖しくなくはないものの、平野君は友人や知人がほしがっている本を日本中の古本屋からなんらかの方法で見つけだし、これをときにはタダで提供してしまうという奇特な人物なのだ。

とくにぼくがかつてつくった『遊』や『アートジャパンesk』（講談社）やぼくの著書が、容易に巷間で見つからないときは、ぼくのファンは平野君に連絡をする。すると、いつの日か平野君はその該当本を見つけだし、それを当人に知らせてあげるか、送ってあげる。その捜し出す方法がなんとも不思議で、なにかのときに「ひらめく」そうなのだ。たとえば『遊』6号がほしいという人物が平野君に連絡をする。そうすると、平野君はとくに焦るわけでもなく、「はい、いつかね」と言って、そのことを仕舞いおく。ところが、ある日、平野君のアタマのどこかに『遊』6号が世田谷の多摩川あたりの本屋の片隅に寂しく光っているのが見えるのだ。

そこで平野君はその本屋に行く。わざわざ自分で出かけるのだ。そして、これを入手し、ぼくは口銭はともかくも実費くらいはとるべきだとおもうのだが、その本を当人に丁寧に梱包して提供するのである。

つまり平野雅彦こそは義賊鼠小僧のごとき「せどり男爵」なのである。

しかも、この「せどり男爵」は自身がたいへんな愛書家で、著者関連グッズのコレクターであって、そのためならどんな時間も費用も惜しまないという男爵なのである。だから、求めたい本が日本のどこかにあるという「ひらめき」があると、ひそかに単身の旅をしつつけるのもあった。

聞けば、著者関連グッズとしては「手塚治虫」と「松岡正剛」の堂々二本立てをもって任じているようで、その部屋をちょっと覗いた者の話では、なかなかのコレクションだったという。



• [RSSを表示する](#) •



松岡正剛の最新情報はこちら



いつでも見たい、松岡正剛



千夜千冊の小窓

書名、または著者名からバックナンバーを検索できます

Google 検索

Web www.isis.ne.jp

千夜千冊 BACK NUMBER

→ [\[目次\]](#)

- [1144](#) 『海上の道』 柳田国男
- [1143](#) 『異装のセクシャリティ』 石井達朗
- [1142](#) 『日本人の自画像』 加藤典洋
- [1141](#) 『稲と鳥と太陽の道』 萩原秀三郎
- [1140](#) 『猿と女とサイボーグ』 ダナ・ハラウェイ
- [1139](#) 『カムイ伝』 白土三平

ぼくはその秘密のコレクション・ルームを襲ったことではないのだが（いつか急襲しようとはおもっているが）、どうやらぼくのものもいろいろ貯めこんでいるらしい。手塚治虫と並べられたのはなんとも光栄のかぎりである。ただそういう事情だけに、ぼくとしてはなんとか平野君に「損」をしてもらいたくはないので、せめてここに平野君の異様な能力を公開して、平野君におねだりする諸君に平野君への正しい礼儀を欠かないことを訴えるものだ。

さて、おまたせしました。梶山季之の「せどり男爵」の物語であるが、掘り出しものの古本を安く探しては別のところへ高く転売する仕事をしている笠井菊哉という男が、偶然ながら6つの事件をめぐる話を、たまたま「私」が聞き出すというミステリー仕立てになっている。1974年の「オール読物」に連載された。

おまたせしたうえですまないことだが、ここで事件のひとつひとつを案内する気はない。なにしろ数々の書痴やビブリアマニアが登場し、奇妙な古書店やオークション会場を舞台に、和綴本『京すずめ』、光悦『謡曲百番』、発禁後は十部しか現存していないはずの荷風『ふらんす物語』、ルーズベルト大統領の3冊の蔵書、[シェイクスピア](#)のフォリオ、幻の稀観本といわれるザビエルがもたらした『精神修行の要領』、1631年にロンドンで出版された『邪悪聖書』などなどをめぐって、微妙な人間関係と功利関係と愛欲関係が描かれるというもので、これはただ読めばよろしい。それだけで手軽にたのしめる。

そういうなかに、突然、日本の南進政策はまちがっていて、まずハワイを占領してメキシコと同盟を結び、アメリカ西部の日系人と呼応してアメリカ本土を責めるべきだったなどという大胆な会話が挟まってくる。

こういう按配は梶山季之がもともとは週刊誌のトップ屋で（「週刊文春」創刊号からトップ記事を書いていた）、ありとあらゆる情報に通じていたことをおもわせるとともに、梶山がダテに記事を書いていたのではなく、そうとう現代史をふくむ歴史の暗部について定見をもっていたことを窺わせる。

- [1138](#) 『江戸の枕絵師』 林美一
- [1137](#) 『ゲイ文化の主役たち』 ポール・ラッセル
- [1136](#) 『悪徳の栄え』 マルキ・ド・サド
- [1135](#) 『非常民の性民俗』 赤松啓介
- [1134](#) 『日本創業者列伝』 加来耕三
- [1133](#) 『市場の書』 ゲルト・ハルダッハ&ユルゲン・シリング
- [1132](#) 『女帝の手記』 里中満智子
- [1131](#) 『日本／権力構造の謎』 上・下 カレル・ヴァン・ウォルフレン
- [1130](#) 『多文明共存時代の農業』 高谷好一
- [1129](#) 『木村兼葭堂のサロン』 中村真一郎
- [1128](#) 『江戸商売図絵』 三谷一馬
- [1127](#) 『性的差異のエチカ』 リュス・イリガライ
- [1126](#) 『インターネット資本論』 スタン・デイビス&クリストファー・マイヤー
- [1125](#) 『ボランティア』 金子郁容
- [1124](#) 『アヴァン・ポップ』 ラリイ・マキャフリイ
- [1123](#) 『笑いの経済学』 木村政雄
- [1122](#) 『ぼくの哲学』 アンディ・ウォーホル
- [1121](#) 『百物語』 杉浦日向子
- [1120](#) 『女性の深層』 エーリッヒ・ノイマン
- [1119](#) 『北条政子』 永井路子
- [1118](#) 『ネット・ポリティックス』 土屋大洋
- [1117](#) 『T.A.Z.』 ハキム・ベイ
- [1116](#) 『江戸の身体を開く』 タイモン・スクリーチ
- [1115](#) 『資本主義のハビトゥス』 ピエール・ブルデュー
- [1114](#) 『猫と小石とディアギレフ』 福原義春
- [1113](#) 『江戸の市場経済』 岡崎哲二
- [1112](#) 『田中清玄自伝』 田中清玄・大須賀瑞夫
- [1111](#) 『黒い花びら』 村松友視
- [1110](#) 『昭和という時代』 鈴木治雄対談集
- [1109](#) 『澄み透った闇』 十文字美信
- [1108](#) 『市場対国家』 ダニエル・ヤーギン&ジョゼフ・スタニスロー
- [1107](#) 『負ける建築』 隈研吾
- [1106](#) 『未来派』 キャロライン・ティズダル&アンジェロ・ボツツオーラ
- [1105](#) 『写真ノ話』 荒木経惟
- [1104](#) 『建築的思考のゆくえ』 内藤廣
- [1103](#) 『バイ・バイ・キップリング』 ナム・ジュン・パイク
- [1102](#) 『コンセプチュアル・アート』 トニー・ゴドフリー
- [1101](#) 『モダンデザイン批判』 柏木博

- [1001—1100](#)
- [901—1000](#)
- [801—900](#)
- [701—800](#)
- [601—700](#)
- [501—600](#)

いま、梶山季之を読む読者は少ないのではないかとおもう。45歳で香港で客死したため、長編作品が少ないせいもあるが、当時は社会派・産業小説といえ、[松本清張](#)よりも梶山季之だった。田宮二郎が主演した傑作『黒の試走車』など、映画で見覚えのある読者もいるにちがいない。

映画といえば、ぼくは梶山の『李朝残影』が好きで、こういうものこそが、あの中国映画や韓国映画が傑作を連打した時期に先駆けて日本で映画化をすればよかったのではないかとおもっていた。むろんいまからでも遅くない。

梶山は『噂』という月刊誌も手がけた。みずから編集刊行の責任をとったもので、ぼくにはいささか因縁を感じるところがあった。なぜなら『噂』は1971年に創刊されたのであるが、この年はぼくが『遊』を創刊した年でもあったからだ。

その梶山が残した「せどり男爵」がいま平野雅彦という精神義賊によって、新たな相貌をもって蘇っている。なんだか温かいものを感じるのである。

ところで、いまはブックオフのような新手的古書店が出現して、誰もが「せどり」をしやすくなっている。ブックオフは新刊本が高くて刊行日が古くなっていくぶん安くなっているからで、これはよくよく捜し出せば、けっこう掘り出しものに出会えるからである。けれどもよほどの精力がないかぎり、うまい「せどり」を抜ききることはできない。

古本屋を回った経験がない者には本格的な「せどり」は無理なのだ。どうしても「せどり」をしたいなら、平野君に「ひらめき」の秘密を聞くことである。

| | |
|-----|-----|
| 401 | 500 |
| 301 | 400 |
| 201 | 300 |
| 101 | 200 |
| 001 | 100 |

各ナンバーをクリックすると、別ウィンドウで一覧が表示されます。



クリックするとランダムにバックナンバーが出現します。電子の自由が選んだ一冊を、あなたに。

Ads by Google

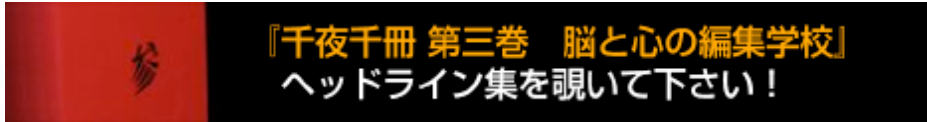
[ネット注文。ドミノピザ](#)
平野地域にアツアツをお届け。ネット注文でさらに5%OFFとお得!
www.dominos.jp/

[平野の派遣情報](#)
派遣の仕事情報は1日3回更新。豊富な職種から仕事検索。リクナビ派遣
www.isize.com/work/

[古書・古典籍 思文閣](#)
古書・古典籍の販売・査定・買取 創業70年京都から信頼をお届けします
www.shibunkaku.co.jp

[新せどりノウハウ](#)
アマゾン、オークションで古本を売って月30万稼ぐ方法。2000人が体験。
www.sedori.net

[高原書店](#)
きっと見つかる 在庫総数100万冊 7月20日まで全品20%引きセール中!
www.takahara.co.jp



© Copyright Editorial Engineering Laboratory.
All rights Reserved.

| [ISIS編集学校](#) | [いと◎へん](#) [ISIS](#)